

教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山
手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合
代表者 川 原 芳 和
編集人 西 山 修
電話 050 (3538) 2346
1部15円 年定価360円
(組合員の購読料は
組合費の中に含む)

2020/8・1

No.2004

家庭版

20年度 兵庫教育文化研究所

第84回運営委員会・第99回研究所員会議

7月11日、20年度兵庫教育文化研究所 第84回運営委員会・第99回研究所員会議がラッセホールで二部に分かれておこなわれ、106人が参加した。
大塚昭宏事務局長から、経過報告と2020年度のとりくみ、第70次教育研究活動の推進などについて提起された。
研究所員会議では、20の部会にわかれ、それぞれの研究課題や年間計画等が話し合われた。

基調提案

今回教研は第70次の節目を迎える。本部研究所は設置40年を経過し、開かれた教研として55次から開催してきたひょうご教育フェスティバルも15年が経過した。公的な研修とは異なり、子ども・地域の実態をもとに討議をすすめる兵庫が大切にしてきた分業からの組織教研の意義を確認し、これまでの優れたとりくみに学ばなければならない。若い世代が増えている状況において必要であると考え、新型コロナウイルス感染症による臨時休業は学校運営に大きな影響を及ぼした。再開後も新しい生活様式がとめられ、通常通りの教育課程が実施できない状況にある。
今回、広い兵庫県内で各自治体によって臨時休業や再開、長期休業の短縮等の対応がわかれたことから、各地域組合・分会ごとに地



▲飛沫感染防止シールドとフィジカルディスタンスを実施しての開催

教研活動の重要性

第268回定例中央委員会より

兵教組水上教職員組合 討論(要旨)

兵教組水上には、組合員全員が集まる会が年間に約10回ある。その中でも、長年続けてきた教研活動は、自主教研と職場教研の2本柱でとりくみ、先輩方から受け継がれてきた伝統を守りながら、活発に活動をしている。
今年度は7月1日に第1回目の自主教研を開催し、様々な話し合い、交流がなされた。部会の中では、講師を招き、「新型コロナ」の状況下での「参加のはしご」という題で講演いただいた部会もあった。「氷上」の子どもの「氷上」の状況下、「新型コロナ」の状況下、学校再開までをどのように過ごすか。また、組合員の教育力量・専門的力量を高めるため、教科や教育課題に合わせた自主的な研究活動を進めようとする。このように暮らしているのか?という「子どもたちの



▲盧田書記長(水上)の討論の様子

兵教協が医療機関などにマスクを寄贈!

7月7日、兵教協(兵庫県教職員組合協議会)の略称「兵教組」・兵高教・兵厚労で構成)は連合兵庫の要請のもと、余剰の未使用マスクを持ち寄り、コロナ禍に対応する医療機関を中心とした施設にマスクを寄贈する。このように状況を受け、日教組は、近畿中央病院をはじめ、公立学校共済組合直営の全国8病院に、マスクを寄贈した。(日教組HP「二ニュース」<https://www.jtu-net.or.jp/news/>参照)

現在、全国の医療現場で働く職員のみならずは、新型コロナウイルス感染症対策の最前線で連日奮闘している。しかし、医療機関などでは、医療物資の不足が深刻化している。日教組加盟単組「公立連合」に集う、公立学校共済組合の病院労働からは、院内感染防止をはかる必要性が高まり、「衛生器材が不足し、繰り返し

「いっぱいとったー!!」



(一財) 兵庫県学校厚生会第13回写真公募展〜こどもの世界〜 入選
小西愛衣さん(丹波篠山市西紀小学校) 撮影

このような中で、わたしたち教職員は2030年を展望し、子どもたちにどのような力をつけたらいいのか、子どもたちにとっての「学力」とは何か、そのためにどのような実践ができるのかを協議する必要がある。
以上のことから、基調提案では各分科会において、①これまでの研究成果、課題について参加者で共有すること ②コロナ禍のなかで教職員の創意工夫による学校運営がどのように変化したのかを各分科会課題の視点から共有すること

今回、各地域組合・分会からのレポート報告をもとめていないことから、次のような実践例をもとにした協議が考えられる。(例)これまでの優れた実践(日本)の教育…このレポートに学ぶ「研究40年のあゆみ」「兵庫の教育」等の学び直し、研究所員や組織的なとりくみをすすめている自主教研グループの実践提案など。
参加者が聞いて学ぶだけでなく、ワークショップや小グループでの討議等を通して、自らの実践との共通点、実践における課題や悩みの出し合い、解決にむけた気持ち、機会となるような討議の場としたい。

今だからこそできる「くだわりのある実践」を!

津名教職員組合

「兵庫の教職員が守られているのは、教研活動で高かった」と、先輩教員から教えていただいたことを思い出しました。
新型コロナウイルス感染症における臨時休業が続いた後、こんな時期に教研活動をするのか、という声も

上がりました。しかし、今こそ、子どもたちのために私たち教職員ならではの観点で学びを語り、深め合う時であると先輩教員から教えていただき、教研活動での困り感を共有し、子どもたちへ工夫ある課題の出し方や評価の仕方を話し合うと思っています。

うだけでもいい研修になりました」と数多くの声をいただきました。
コロナ禍だからできないと教職員があきらめてしまふと、より子どもたち同士の人間関係が希薄になってしまふ。コロナ禍だからこそできる、兵教組の「くだわりのある実践」をやってきた教職員の私たちがうだけこそできる、学びを子どもたちに今から始めていくと思っています。



銀河鉄道の世界
神河町立神崎小学校
5年 上野 芽生

夜空
南あわじ市・洲本市組合立広田中学校
1年 片山 美月
ぴかぴか輝く星をながめていると心が和んできて
ちよつと幸せな気持ちになつてくる
きらきら光る月をながめているときれいな姿にみとれちゃって
ちよつと心もときめいてくる
星や月たちは私達の心を彩ってくれる
今日は夜空をながめてみませんか?



▲マスク寄贈の様子

なぜこの状況下で教研活动をおこなう必要性があるの？

2月27日の安倍首相による全国の学校への一斉臨時休業要請は、学校現場を不安と混乱に陥れた。学校現場では年度末・年度初めの臨時休業となったことで、卒業式が簡素化されたり、入学式が延期されたりと大きな影響が出た。さらに、4月から5月末にかけて約2か月にわたり臨時休業となったことで、20年度の教育課程の再編や長期休業が短縮された。再開後の学校現場では、「新たな生活様式」によるさまざまな制限の中で、子ども・教職員にとって不安感がぬぐい切れない状況にある。



▲昨年度の県教研(分科会)の様子

基礎疾患・妊娠教職員の不安軽減策、補正予算に対応した予算確保と教職員の配置拡充をもとめ協議をおこなった。



▲昨年度の教育課程編成講座の様子

今回、臨時休業や学校再開にむけた対応が県内各自治体により異なったことから、各地域組合が分会・組合員の思いをくみ上げ、本部と連携しながら各地教委と協議をおこなうことが数多くともめられることとなった。しかし、休業期間中の補充授業をおこなうための長期休業の短縮期間や、各種行事の中止などの決定が首長や地教委の主導のもと決定されている状況がある。学校現場の状況をもとに、子どもや教職員の目線にたつた決定がなされているのか疑問である。

わたしたちは、これまで、阪神・淡路大震災や04年の台風23号等の災害時においても、子どもを中心にすえた教育課程編成の工夫が教

職員の自主的な取り組みのもとおこなわれてきた。その原点は、すべて子どもにとっての最大の幸福を願って現場で創意工夫されたものである。おとなであれば、今年度できなかったことを来年度に持ち越すことは可能かもしれないが、その学年を過ごすことが1度しかない子どもにとって、学校文化として根付いてきたものを行政判断で安易に「中止」という決定をしてもいいのだろうか。そこに子どもへの願いは反映されている

のだろうか。何か、子どもを主体とした創意工夫のある取り組みができないものだろうか。

今回の「コロナ禍」により、学校は「学習の場」だけではないということ、子どもたちが学校生活を通して人と安心安全につながるということが居場所であるという点等、公教育における「学校」の存在のあり方が問い直されるきっかけとなった。今こそ、このコロナ対応の状況下において、学校現場でどのような対応がなされたのか、長期にわたる臨時休業を経た子どもたちの様子はどうか、オンライン授業はどうか、オンライン授業はどのような効果・課題があるのか、広い兵庫の地でさまざまな状況下での対応を検討してきた兵庫の学校現場からこそ、より広い視点からこの状況について話し合い、教職員の自主的な教育課程編成につなげていかなければならない。

これまで、教育課程学習会においては、教育課程の編成権は各学校にあることを提起してきたが、皮肉にも今回のコロナ禍による対応で、身をもって経験することとなった。分会として学校で協議してすすめること、地域組合が地教委と協議してすすめること等がより鮮明になったのではないだろうか。また、授業時数の確保のみをもとめるのではなく、教育内容のまとまりや関連づけによる授業の実施など、カリキュラム・マネジメントによる現場の工夫も可能とされていることから、より主体的にカリキュラム編成を意識した教育実践がもたらされる。さらに、国によるGIGAスクール構想も今回の事態で前倒しにて実施されることとなったことから、その効果的な活用についても議論していくことがもたらされる。タブレット等を活用したオンライン学習でも可能である内容もある一方、お互いが顔を合わせて対話しながらすすめていくことの必要性も改めて認識している。

2030年が「予測不能な未来社会」とされてきたが、既に今回のコロナ禍はまさにその状況にある。これまで、開かれた教研として子ども・保護者・地域の連携・協力のもと開催してきた、ひょうご教育フェスティバル(第70次兵庫教育研究会)は、新型コロナウイルス感染症への影響から、11月14日(土)丹波地区において組合員のみの参加による一日開催とすることの提起をしている。各地域組合・分会からのリポート報告を今回はもとめていないが、70次を迎えるこれまでの取り組みに学ぶとともに、新型コロナウイルスという未知なるものに対峙してきた組合員みなさんの実践や課題を持ち寄り、協議しておくことが、新たな教育課題に対する提起となると考えている。新たな生活様式がもたらされるなか、様々な困難を乗り越えて、同じ場に集い、つながり、思いや願いを共有していくことは組合活動の原点とも言える。開催の趣旨を理解し、参加いただきたい。

▲昨年度の県教研(分科会)の様子

兵政連はこの間、県・県教委に対して、学校現場が子どもの安心・安全を確保しながら、「学びの保障」にとりくむことができるよう各地域組合・分会と連携し意見反映をおこなってきた。緊急事態宣言下での教職員の在宅勤務の導入や、

校休業を要請しました。要請通りに休業するのであれば、登校は翌日の28日のみ。現場に考える暇を与えない、ほば命令に等しい要請は、直前まで文部科学大臣もその詳細を知らないという前代未聞のものでした。それから現在に至るまで、学校現場や家庭の混乱は想像を絶するものと承知しております。

現場の全国の組合員から寄せられた声を伺いながら、私は参議院予算委員会、文教科学委員会、学校関連のコロナウイルス対応につ

いて質疑を重ねてまいりました。質疑のなかでは「休業要請は政治判断」との答弁が飛び出し、教育の視点がまったくないことにあるばかりでした。

さて、立憲民主党をはじめとした共同会派として文部科学省にコロナ禍における様々な教育課題に関して要請をおこなったところ、「学生支援緊急給付金」が形になりました。この給付金の内容はおよそ私たちの要求には及ばないものですが、学生に対する「給付金」が実現したことには一定の

評価ができると考えています。果たして一斉休業の感染症に対しての予防効果はあったのでしょうか。これについては専門家の検証を待ちたいと思います。問題は、この唐突な学校休業要請に何の法的根拠もなく、決断に至る過程の議事録すら残っていないということ。これでは後世において検証も出来ず、同じような事態が起きた際に過去の事例として参考になることができません。安倍政権は「二事万端」このような

調子で、都合の悪い資料を改ざん・破棄、議事録を残さないことは当たり前。検察庁法改正案の混乱の中で、ついには「口頭決裁」までおこなわれました。5月27日に閣議決定された二次補正予算案は、歳出の3分の1近くを占める予備費がなんと10兆円。財政民主主義の観点からも議案をないがしろにする政権に10兆円も白紙委任するわけにはいきません。

今回の検察庁法改正案に対して多くの国民が声をあげたことで先送りになった

ように、人々の「声」は政治を動かすことができるのです。子どもたちが学びの場、教職員に働きやすい環境をつくるために、みなさんと一緒に声をあげてまいります。引き続きのお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

参議院議員(兵政連会長) みずおか 俊一さん

「声」は政治を動かすことができる！

参議院議員(兵政連会長) みずおか 俊一さん



みなさまのご支援のおかげで、昨年7月に3年振りの国政復帰を果たすことができました。現在は日政連国会議員団の幹事長として仲間の議員と活動しています。

2月27日(木)夕刻に安倍総理大臣は、全国一斉学

校休業を要請しました。要請通りに休業するのであれば、登校は翌日の28日のみ。現場に考える暇を与えない、ほば命令に等しい要請は、直前まで文部科学大臣もその詳細を知らないという前代未聞のものでした。それから現在に至るまで、学校現場や家庭の混乱は想像を絶するものと承知しております。

現場の全国の組合員から寄せられた声を伺いながら、私は参議院予算委員会、文教科学委員会、学校関連のコロナウイルス対応につ

いて質疑を重ねてまいりました。質疑のなかでは「休業要請は政治判断」との答弁が飛び出し、教育の視点がまったくないことにあるばかりでした。

さて、立憲民主党をはじめとした共同会派として文部科学省にコロナ禍における様々な教育課題に関して要請をおこなったところ、「学生支援緊急給付金」が形になりました。この給付金の内容はおよそ私たちの要求には及ばないものですが、学生に対する「給付金」が実現したことには一定の

評価ができると考えています。果たして一斉休業の感染症に対しての予防効果はあったのでしょうか。これについては専門家の検証を待ちたいと思います。問題は、この唐突な学校休業要請に何の法的根拠もなく、決断に至る過程の議事録すら残っていないということ。これでは後世において検証も出来ず、同じような事態が起きた際に過去の事例として参考になることができません。安倍政権は「二事万端」このような

調子で、都合の悪い資料を改ざん・破棄、議事録を残さないことは当たり前。検察庁法改正案の混乱の中で、ついには「口頭決裁」までおこなわれました。5月27日に閣議決定された二次補正予算案は、歳出の3分の1近くを占める予備費がなんと10兆円。財政民主主義の観点からも議案をないがしろにする政権に10兆円も白紙委任するわけにはいきません。

今回の検察庁法改正案に対して多くの国民が声をあげたことで先送りになった

ように、人々の「声」は政治を動かすことができるのです。子どもたちが学びの場、教職員に働きやすい環境をつくるために、みなさんと一緒に声をあげてまいります。引き続きのお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

文教科学委員会質疑する水岡俊一参議院議員

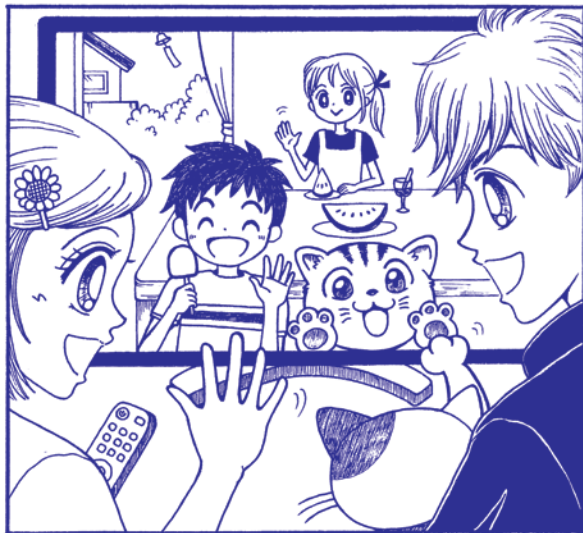
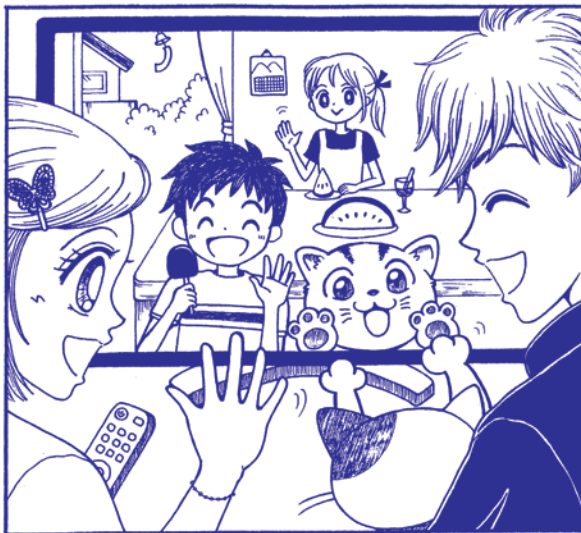


ファミリーパズル まちがい探し

パズル制作：ひろ みよこ

右と左の絵をよく見くらべると、違っているところが10カ所あります。どちらかの絵に10カ所赤丸を入れ、切り取ってはがきに貼って送ってください。お名前、年齢、地域組合名、住所(郵便番号も)を明記の上、

ご応募ください。また、本紙の感想などもお寄せください。20人の方に粗品を差し上げます。
締め切り：9月30日(消印有効)
あて先：〒650-0004 神戸市中央区中山手通4-10-8ラッセホール4F「教育ひょうご編集部」



残暑お見舞い申し上げます。

兵政連一同



ひわだ 充
(三田市議会議員)



つだ 加代子
(川西市議会議員)



みずおか 俊一
(参議院議員)



古田 ひろあき
(三木市議会議員)



竹内 きよ子
(明石市議会議員)



岩下 あきら
(西宮市議会議員)



やの こうじ
(神戸市議会議員(東灘区))



土井 たくみ
(南あわじ市議会議員)



三木 浩一
(たつの市議会議員)



北野 さと子
(宝塚市議会議員)



岸田 まさと
(伊丹市議会議員)